

ゼリー状着火剤の使用に注意！！



釧路市消防本部では、春から秋にかけての行楽シーズンにバーベキュー等の際、火おこし時などに使用する、「着火剤」を継ぎ足して使用すると、衣服に燃え移る可能性があることから、取扱い方法について注意を呼びかけています。



『着火剤』について

着火剤とは、木炭や薪等に容易に着火させるため、補助的に使用する燃料のことです。柔らかいポリ容器から絞り出して使うゼリー状や固形状のものパック入りとなっているもの等があります。成分は、アルコールや灯油、木材繊維などで様々な製品があります。

『継ぎ足し使用の危険性』について

明るい屋外で木炭や薪などに一度火をつけても、炎が見えにくくまだ燃えていないと思ったり、火力が小さいと思って着火剤を継ぎ足しする場合に、揮発性・燃焼性の高い着火剤を勢いよく継ぎ足すと突然炎が大きくなり、周囲の人や物に燃え移る危険があります。

『注意事項』について

- 一度つけた火に、着火剤の継ぎ足し使用は絶対しないこと。
- 着火剤の主成分であるメチルアルコールは揮発性が高く、ガス化した場合に引火しやすいため、火の側で蓋を開けたまま放置しないこと。
- 点火時には、周囲の物と十分距離をとること、また燃えた着火剤が飛び散ったり、揮発した着火剤に引火し、着ている衣服に着火する可能性があるため、バケツに水を汲んで用意しておくなど消火の準備をしておくこと。



金川 路 新 聞 平成22年(2010年)7月23日(金曜日)

「絶対しないで」 東京消防庁

10年で5件 子供被害も

着火剤継ぎ足し火災



どをやけどして重傷を負った事故を受けて、同庁が20日に実験をしたところ、着火剤投入後に1層の炎が上がって飛び散り、人形の衣服が燃えた。都内では2002年4月、青梅市の河川敷でバーベキュー中、継ぎ足した着火剤が飛び散り、11歳だった男児が手足に軽いやけどをした。04年9月には、江戸川区の住宅敷地内で、39歳だった女性のTシャツが燃え、上半身にやけどを負った。

着火剤は炭やまきのおおし時に補助的に使う燃料で、揮発性が高く、燃えやすい。説明書には「継ぎ足して使用しない」と書かれているケースが多く、同庁は「安全管理を心掛けて」としている。

着火剤の継ぎ足しによる火災実験(東京消防庁提供)

バーベキュー中に市販のゼリー状着火剤を継ぎ足し、着火剤が飛び散るなどして衣服に燃え移る火災が、東京都内では過去10年で5件起きている。愛知県大治町では18日午後8時ごろ、バーベキュー中、このように継ぎ足した着火剤が飛び散り、女性(22)が顔な

対にしないで」と呼び掛けて

たことが20日、東京消防庁のまとめで分かった。同庁は絶対

着火剤継ぎ足し火災報道記事
(釧路新聞社提供)